

■世界：CCSプロジェクトが倍増

2014年11月4日報道によれば、地球温暖化を遅らせるために二酸化炭素回収隔離（CCS）に関心のある政府や企業で構成された、オーストラリアを本拠地とするグローバル CCS インスティテュートは、二酸化炭素回収・貯留の大規模産業プロジェクト数が、2010年の11件から2014年には22件になり、その技術はCCSを装備した世界初の石炭火力発電所の運転開始で節目を過ぎた、と報告した。カナダのサスカチュワン・パワー社は、13.5億カナダ・ドル（11.8億ドル）をかけて、2014年10月に初のCCSプロジェクトをバウンダリー・ダム石炭火力発電所で開始、二酸化炭素排出量の90%の回収を目指している。回収された二酸化炭素のほとんどは、石油増進回収のためカナダのコンバーズ・エナジー社に売却される。同研究所は、ミシシッピ州ケンパー郡のエネルギー施設が2015年に運転開始し、テキサス州のペトラ・ノヴァ炭素回収プロジェクトが2016年に始動するとしている。同研究所の最高経営責任者（CEO）は、「CCSなしでは、気候変動への取り組みに効果的に対応することはできない」としている。同研究所のプレス・リリースでは、2014年報告書は、日本で実施中の「注目に値する」プロジェクトに焦点を当てているとしている。